

第5次朝霞市総合計画_後期基本計画 総括評価シート (対象：R3～5年度)

政策分野	第3章 教育・文化	主管部	学校教育部
大柱	01 学校教育 (後期基本計画冊子 P84～87)	主管課	教育指導課
関係部課	教育総務課		

I 目指す姿

子どもに豊かな心と健やかな体を育むとともに、主体的・対話的で深い学びにより確かな学力と自立する力を身に付け、質の高い教育を支える教育環境が充実したまちを目指します。 また、学校・家庭・地域が相互に連携・協働し、地域全体の教育力が向上しているまちを目指します。	達成状況
	B
	おおむね順調

II 計画策定時の現状と課題、主な取組・成果・達成状況

計画策定時の現状と課題及び主な取組・成果		達成状況			
中柱1	(1) 朝霞の次代を担う人材の育成	B			
	<table border="1"> <tr> <th>《計画策定時の現状と課題》</th> <th>《主な取組・成果》</th> </tr> <tr> <td>本市では一人一人の児童生徒へきめ細やかな指導を行うため、生徒指導や教育相談体制の整備充実などに取り組んでいる。今日の多様化・複雑化する社会に対応して、朝霞に住み、日々成長する子どもたちが、心豊かに生きる力を育むことができるよう学校教育の充実が求められている。</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 部活動の在り方検討会議を開催した。 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業（朝霞第五中学校）を実施した。 スクールカウンセラーを市内全小・中学校に配置し、関係機関等とも連携しながら、子どもが抱える課題に応じた支援を実施した。 中学校のさわやか相談室にさわやか相談員、サポート相談員を配置し、きめ細やかな相談体制を構築した。 食育啓発リーフレットを作成し、家庭に配布した。 </td> </tr> </table>		《計画策定時の現状と課題》	《主な取組・成果》	本市では一人一人の児童生徒へきめ細やかな指導を行うため、生徒指導や教育相談体制の整備充実などに取り組んでいる。今日の多様化・複雑化する社会に対応して、朝霞に住み、日々成長する子どもたちが、心豊かに生きる力を育むことができるよう学校教育の充実が求められている。
《計画策定時の現状と課題》	《主な取組・成果》				
本市では一人一人の児童生徒へきめ細やかな指導を行うため、生徒指導や教育相談体制の整備充実などに取り組んでいる。今日の多様化・複雑化する社会に対応して、朝霞に住み、日々成長する子どもたちが、心豊かに生きる力を育むことができるよう学校教育の充実が求められている。	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の在り方検討会議を開催した。 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業（朝霞第五中学校）を実施した。 スクールカウンセラーを市内全小・中学校に配置し、関係機関等とも連携しながら、子どもが抱える課題に応じた支援を実施した。 中学校のさわやか相談室にさわやか相談員、サポート相談員を配置し、きめ細やかな相談体制を構築した。 食育啓発リーフレットを作成し、家庭に配布した。 				
中柱2	(2) 確かな学力と自立する力の育成	B			
	<table border="1"> <tr> <th>《計画策定時の現状と課題》</th> <th>《主な取組・成果》</th> </tr> <tr> <td>未来を生きる子どもたちには社会的に自立する力が不可欠である。先行きが不透明な時代に子どもたちが将来、社会の形成者としての役割を果たすためには、確かな学力を身に付けるとともに基盤となる自己肯定感や規範意識をしっかりと持たせることが必要である。そのためには、子どもたちが人との関わりの中で自分の価値を見出し、社会での職業や勤労について理解し、働くことについてしっかりとした意識を持てるよう教育することが求められている。</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 低学年補助員、あさかスクールサポーター、特別支援学級補助員等を学校ごとに適切配置するとともに当該職員に研修会を実施した。 ICT支援員を配置（R5：3名）し、情報教育に係る学習環境の整備を行うとともに、支援員が授業におけるICT活用についてサポートし、スキル向上を図った。 通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒支援員を各小中学校へ3,000回以上派遣した。 英語指導助手を小学校7名、中学校5名配置し、英語担当教員とチーム・ティーチングを実施した。 地域での職業体験の実施（市内全中学校）や、地域人材をゲストティーチャーとして学習に取り込む等の取組により、勤労について体験的に学ぶ機会を設けた。 </td> </tr> </table>		《計画策定時の現状と課題》	《主な取組・成果》	未来を生きる子どもたちには社会的に自立する力が不可欠である。先行きが不透明な時代に子どもたちが将来、社会の形成者としての役割を果たすためには、確かな学力を身に付けるとともに基盤となる自己肯定感や規範意識をしっかりと持たせることが必要である。そのためには、子どもたちが人との関わりの中で自分の価値を見出し、社会での職業や勤労について理解し、働くことについてしっかりとした意識を持てるよう教育することが求められている。
《計画策定時の現状と課題》	《主な取組・成果》				
未来を生きる子どもたちには社会的に自立する力が不可欠である。先行きが不透明な時代に子どもたちが将来、社会の形成者としての役割を果たすためには、確かな学力を身に付けるとともに基盤となる自己肯定感や規範意識をしっかりと持たせることが必要である。そのためには、子どもたちが人との関わりの中で自分の価値を見出し、社会での職業や勤労について理解し、働くことについてしっかりとした意識を持てるよう教育することが求められている。	<ul style="list-style-type: none"> 低学年補助員、あさかスクールサポーター、特別支援学級補助員等を学校ごとに適切配置するとともに当該職員に研修会を実施した。 ICT支援員を配置（R5：3名）し、情報教育に係る学習環境の整備を行うとともに、支援員が授業におけるICT活用についてサポートし、スキル向上を図った。 通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒支援員を各小中学校へ3,000回以上派遣した。 英語指導助手を小学校7名、中学校5名配置し、英語担当教員とチーム・ティーチングを実施した。 地域での職業体験の実施（市内全中学校）や、地域人材をゲストティーチャーとして学習に取り込む等の取組により、勤労について体験的に学ぶ機会を設けた。 				
中柱3	(3) 質の高い教育を支える教育環境の整備充実	B			
	<table border="1"> <tr> <th>《計画策定時の現状と課題》</th> <th>《主な取組・成果》</th> </tr> <tr> <td>次代を担う子どもたちを育むためには、教職員が学び続ける存在として、個性を生かし、能力を発揮することが大切である。本市では教職員の資質・能力の向上に努めるとともに、心や身体の健康保持増進、働き方改革に基づく取組を進めるなどの支援を行っている。 また、快適な教育環境を目指し、自校給食室の設置、老朽化した学校の改修、エアコンの整備やICT環境の充実、柔軟な通学区の運用などに取り組んでいる。今後、しばらくの間、人口増が続くと推計されている中で、老朽化する学校施設の長寿命化を図り、児童生徒数の変動を見据えた、安全・安心で持続的な教育環境を確保することが求められている。</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 教科等指導員を任命する教科等の数は目標に達していないが、専門性の高い外部講師を招聘するなどして、教職員の指導力向上を図ることができた。 研究開発学校の指定などの取組により、教職員の資質向上を図った。 小学校の少人数学級に対応するため、普通教室への転用改修工事を実施した。また、第六小学校と第九小学校の増築工事に着手した。 順次進めていた屋内運動場へのエアコン整備については、令和5年度をもって全校への設置が完了した。 中学校自由選択制による通学区域の弾力化や特認校制度による活性化に努めた。 </td> </tr> </table>		《計画策定時の現状と課題》	《主な取組・成果》	次代を担う子どもたちを育むためには、教職員が学び続ける存在として、個性を生かし、能力を発揮することが大切である。本市では教職員の資質・能力の向上に努めるとともに、心や身体の健康保持増進、働き方改革に基づく取組を進めるなどの支援を行っている。 また、快適な教育環境を目指し、自校給食室の設置、老朽化した学校の改修、エアコンの整備やICT環境の充実、柔軟な通学区の運用などに取り組んでいる。今後、しばらくの間、人口増が続くと推計されている中で、老朽化する学校施設の長寿命化を図り、児童生徒数の変動を見据えた、安全・安心で持続的な教育環境を確保することが求められている。
《計画策定時の現状と課題》	《主な取組・成果》				
次代を担う子どもたちを育むためには、教職員が学び続ける存在として、個性を生かし、能力を発揮することが大切である。本市では教職員の資質・能力の向上に努めるとともに、心や身体の健康保持増進、働き方改革に基づく取組を進めるなどの支援を行っている。 また、快適な教育環境を目指し、自校給食室の設置、老朽化した学校の改修、エアコンの整備やICT環境の充実、柔軟な通学区の運用などに取り組んでいる。今後、しばらくの間、人口増が続くと推計されている中で、老朽化する学校施設の長寿命化を図り、児童生徒数の変動を見据えた、安全・安心で持続的な教育環境を確保することが求められている。	<ul style="list-style-type: none"> 教科等指導員を任命する教科等の数は目標に達していないが、専門性の高い外部講師を招聘するなどして、教職員の指導力向上を図ることができた。 研究開発学校の指定などの取組により、教職員の資質向上を図った。 小学校の少人数学級に対応するため、普通教室への転用改修工事を実施した。また、第六小学校と第九小学校の増築工事に着手した。 順次進めていた屋内運動場へのエアコン整備については、令和5年度をもって全校への設置が完了した。 中学校自由選択制による通学区域の弾力化や特認校制度による活性化に努めた。 				

【達成状況凡例】 A：極めて順調 B：おおむね順調 C：やや遅れている D：大幅に遅れている

II 計画策定時の現状と課題、主な取組・成果・達成状況（続）

計画策定時の現状と課題及び主な取組・成果		達成状況
中柱 4	(4) 学校を核とした家庭・地域との連携・協働の推進	B おおむね順調
	<p>《計画策定時の現状と課題》</p> <p>核家族化や地域社会のつながりの希薄化等により子どもたちを取り巻く環境や生活様式が大きく変化中、子どもの頃から社会や人々と関わり多様な経験をすることが必要である。子どもたちは地域の大人との日常的なふれあいや様々な経験を通して、地域の構成員としての社会性などを身に付けることができる。そのためには、学校と家庭、地域が連携・協働する双方向の関係に発展させ、地域全体で子どもの学びや育ちを支えることが求められている。</p> <p>《主な取組・成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校において、様々な分野の専門的な知識や技能を有する市民を支援員として授業等で活用し、それぞれの地域性を生かした特色ある学校づくりに努めた。 ・ふれあい推進事業はコロナ禍により令和元年度から開催が困難となっていたが、令和5年度に全中学校区でふれあいまつりを再開することができた。 ・学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を市内14校に設置した。※R6に市内全校がコミュニティスクールとなる。 ・家庭教育学級は、コロナ禍による影響があったができる限り工夫し、学習に取り組むことができた。 	

【達成状況凡例】 A：極めて順調 B：おおむね順調 C：やや遅れている D：大幅に遅れている

III 成果指標

中柱ごとの指標（単位）	策定時現状値	上段：目標・計画値 下段：実績値（R5年度は見込み値）				
	年・年度	R3	R4	R5	R6	R7
全小・中学校を対象に実施される「規律ある態度」のアンケート結果における平均達成率（％）	89	90	90	90	90	90
	R元年度	90	89	88		
学習状況調査における平均正答率を上回った科目数（科目）（小学校2科目／中学校3科目） ※R4のみ小中とも1科目（理科）増	2 3	2 3	2 3	2 3	2 3	2 3
	R元年度	2 3	3 4	2 3		
指導のリーダーとなる知識や技能を持つ「教科等指導員」を任命する教科等の数（教科等）	10	11	13	14	14	15
	R元年度	16	13	2		
市内小・中学校で1年間に活動した学校応援団の総人数（人）	3,421	3,500	3,550	3,600	3,700	3,850
	R元年度	1,686	1,915	2,085		

IV R5年度市民意識調査による重要度・満足度（大柱）

重要度	1.38	満足度	0.21	領域	I
具体的なコメント（良い点）		具体的なコメント（改善点）			
(該当なし)		<ul style="list-style-type: none"> ・とても住みやすいです。現在、大学生、高校生、中学生と3人子どもがいるので、その世代にも少し補助があると助かります。幼稚園など卒園してから無償化になった残念な世代です。 ・小、中の給食費を無償化してほしい。 ・少子高齢化を止める為にも子ども3人目まで授かれるような施策を期待しております。例：義務教育である中学校まで学費、医療費を無償化する等。 ・子育て支援を充実させて欲しい。本当にお金がかかるのは高校以降です。高校の授業料の補助や、大学の授業料の補助をして頂きたいです。子どもが自ら進学を希望したくても親にそれだけの収入がなく進学をあきらめなければならないような社会にならないためにも、学びたいと思っている子には進学ができるようにして欲しい。（大学に通うことで社会人になったときには、しっかりと収入を得て、税金も支払えることにはなるのでは） 			

V 外部評価委員会等の第三者機関からの評価等

中柱 1	<p>【外部評価委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちのケアについて、苦しく、厳しい状態の時ほど、SOSを発信することが難しいので、教育相談等を活用し、そうした子ども達に気が付けるよう注意深く見守る必要があるのではないか。
中柱 2	<p>【外部評価委員会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力と自立する力の育成 ・生活を送る上で、お金の取扱いは切り離せないことから、今後の子どもの人生において金融教育は重要なものであるという認識を持ち、取り組んでほしい。 ・子どもたちが、社会生活上のマナーや経済・金融に関する知識を学んだり、ボランティア活動の経験をするためには、学校教育の中だけではなく、地域住民や地域の企業と連携した取組を行ったらどうか。
中柱 3	<p>【行政施策評価における学識経験者からの意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣食住の場面といった人間に基本的な暮らしの要素に電子空間、デジタル化、AIが加えられたことで、これまでの衣食住空間を電子、デジタル技術が日々浸透している。すなわち、市民の生き方や暮らし、ビジネスの価値観にまで大きく変化をもたらそうとしている。これまでの学校と違う形、内容の学校が登場するかもしれない。授業の形態も大きく変わりつつある。人と人との結びつき、コミュニケーションの手段や形を変化させている。
中柱 4	<p>【総合教育会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域移行にあたり、中学生にとって部活は重要なものであるので、生徒を中心に考えてほしい。

VI 今後の課題

中柱 1	<p>【豊かな心と健やかな体の育成】 発達段階に応じ児童生徒一人一人のきめ細やかな学習支援等を引き続き推進する。</p> <p>【教育相談活動の充実】 関係機関で連携して教育相談活動を充実させていく。特に不登校児童生徒については、該当児童生徒の背景を考慮しながら、更に充実を図る。</p> <p>【部活動の在り方】 各学校の現状を踏まえつつ、指導内容の充実、生徒の安全確保、教員の長時間労働の解消等の観点から、円滑に部活動が実施できるよう検討する。</p>
中柱 2	<p>【主体的・対話的で深い学びの推進】 確かな学力を身に付けさせていくために、引き続き授業改善を推進する。</p> <p>【多様な学びの保障】 低学年補助員やあさかスクール・サポーター、英語指導助手のほか各種支援員の望ましい人的配置を図る。</p> <p>【社会の形成に参画する力の育成】 将来の社会を担っていくことができるよう、持続可能な開発のための教育（ESD）や消費者教育などを推進する。</p>
中柱 3	<p>【教職員の資質向上・働き方改革】 次代を担う子どもたちを育むために、今後も教職員研修の強化による教職員の資質向上を図るとともに、業務のデジタル化など負担軽減につながる方策により働き方改革を推進する。</p> <p>【安心・安全な施設（設備含む）の改築や改修等】 快適な教育環境を目指し、老朽化した学校施設の改築や改修、加えて設備の修繕等を計画的に実施する。</p> <p>【学びの環境整備】 ICT環境の充実整備、近年の温暖化に対応した学習環境の整備、過大規模校の改善に向けた検討を進める。</p> <p>【柔軟な教育環境の推進】 中学校における特認校制度及び中学校自由選択制度については今後も継続し、魅力ある学校づくりを目指す必要がある。</p>
中柱 4	<p>【学校応援団】 子どもたちとの関わりを大切にしながら、学校の教育活動に協力していただく体制づくりを推進する。</p> <p>【ふれあい推進事業】 各中学校区の特色を生かした取組を引き続き展開する。</p> <p>【学校運営協議会】 すべての学校に学校運営協議会を設置し、学校の抱える課題に対して、地域・保護者の教育力を生かして取り組む。</p>

